

## 腸管虚血性疾患に対する ICG 蛍光法を用いた術中腸管血流評価の有用性

### 1. 研究の対象

2018年7月1日から2019年8月までの間に腸管虚血性疾患に対する外科手術を受けた方

### 2. 研究目的・方法

絞扼性腸閉塞や非閉塞性腸間膜虚血などの腸管虚血性疾患においては、手術の際に、血流障害のある血管の範囲を、肉眼的には判断することが困難な場合がしばしばあります。当科では、ICG 蛍光観察という光で血流を判断する方法を用いています。これにより、腸管の血流障害の有無により正確に判断できるようになりました。温存可能な腸管はできる限り温存し、腸管大量切除を避けることで、患者さんの身体的負担軽減、術後の短腸症候群を防止できる可能性があります。

この研究では、腸管切除範囲決定における ICG 蛍光法の有用性を評価することを目的としています。

### 3. 研究に用いる情報の種類

以下の情報を利用します。これらは全て通常の診療で実施された範囲で取得した情報です。手術中、腸管に対して ICG 蛍光観察を行い、腸管虚血の範囲や程度を見て情報として残します。

#### お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

#### 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

済生会熊本病院 研究責任者：外科 部長 高森 啓史

熊本市南区近見 5-3-1

TEL：096-351-8000（病院代表）

以上